

平成30年度 社会科授業の略案 (6学年)

月日 (校時)	単元名	教材名
9月6日(木) 4校時	新しい時代の幕開け	黒船が来た
本時のねらい(2/8) ○黒船来航とそれに対する幕府の対応や外国との貿易が始まった経過を調べ、外国との条約が国内に与えた影響について考えることができるようにする。		
評価規準 知・理 日本が開国にいたる経緯や、外国と結んだ条約が不平等なものであったことを理解している。		
学習過程	学習活動(○発問・予想される児童の反応)	キーワード 留意事項・評価
【導入】 11:30	1 資料を見て考える。 ○資料からわかること・考えられることはありますか。 ・外国の人がたくさんいる ・大砲がある ・俵を運んでいる ・鎧を着た人がたくさんいる ・船に向かっている小さい船がある	ペリー艦隊と防備を固める人々のイラストを見て、課題につなげる。
【展開】 課題把握 11:34 ・シラバス ・言語わざ ・見通し 自力解決 11:40 ペア 班学習 11:50 集団解決 11:55 ・全体学習① ・全体学習② ・考察 まとめ 12:08	2 課題を把握する。 黒船来航と、それに対する幕府の対応や外国との貿易が始まった経過を調べ、国内に与えた影響について話し合おう。 自力解決(12分)・全体学習(13分)・まとめ(3分)・振り返り(4分) 「資料をもとに、根拠を示しながら話す。」 ○ペリーが来航した目的を確認し、幕府の対応や外国との貿易が始まった経過を調べることを確認する。 ・アジアとの貿易を行うため ・日本の港を利用したい ・日本の開国を求めるため 3 世の中に与えた影響についてについて調べる。 (教科書・資料集・学習辞典) ○幕府の対応や条約について調べましょう。 ①幕府の対応 ・アメリカの武力をおそれ、要求を受け入れた ②貿易の始まった経過 ・日本は開国して、日米和親条約を結んだ ・日米修好通商条約を結んだ ・日本の港を開港して貿易をするようになった ③貿易の内容 ・輸入品に関税をかけることが自由にできないので、日本の製品が負けてしまう(関税自主権) ・外国人が犯した罪を日本の法律で裁けない(治外法権) 4 外国と結んだ条約の内容が国内にどのような影響を与えたのか考える。 ○外国と条約を結んだことで、今までとどんなことが変わったのか、これからどんなことが予想されるのか考えましょう。 ・今後も不平等な関係が続いていくのではないか。 ・産業の発展が妨げられるのではないか。 ・人々の間で不満(反発)が出てくるのではないか。 5 まとめる。 黒船の来航により、日本は開国し貿易をはじめた。外国と不平等な条約を結び、関税自主権や治外法権等、人々に影響をあたえた。	ペリー 軍艦 浦賀沖 鎖国 開国 アメリカ合衆国 貿易 条約 不平等 日米和親条約 日米修好通商条約 黒船 治外法権 関税自主権 ・ハンドサインチェックを行い、自力解決ができるようにする。 ・ペリーが来航した目的や幕府の対応を箇条書きにして書かせるようにする。できる児童は、教科書だけでなく資料集や学習辞典からも書けるようにさせたい。 知・理 日本が開国にいたる経緯や、外国と結んだ条約が不平等なものであったことを理解している。 これまでは ～が違って ～と関係(関連)している ～と関係しているように思う かもしれない ・キーワードを使ってまとめをかけるようにする。
【終末】 ふりかえり 12:11	6 学習したことを振り返る。	